

大会長メッセージ

つながろう！東京都

第2回東京都緩和医療研究会学術集会開催にあたって

第2回東京都緩和医療研究会大会長 橋口さおり
(慶應義塾大学医学部 麻酔学教室 専任講師
慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター センター長)

- * 巨大な地方都市 東京都。多くの施設があり、それぞれが質の高い緩和ケアを提供できる可能性を持ちながら、連携を取れていないために、お互いが持てる力を発揮できていないのは、とても残念なことです。
東京都における連携を一緒に考えてみましょう！

2013年の夏、日本緩和医療学会において初めてそれぞれの地域の地方から選出された代議員の地域別話し合いの場が持たれました。緩和ケアは「地域医療」そのものでもあり、その地域の特性を生かした連携の構築が欠かせません。しかし、東京は人口も多く、患者の受診行動も複雑という特色があり、どのように連携をとったらよいかは模索状態です。切れ目ない、質の高い緩和ケアの提供のためには、「地域での緩和ケア」を考える時期にきています。はたして、この東京という巨大な地方都市では、どのように連携をもてばよいのかを、この地域でしっかり考える場が必要なのだと思います。そこで、日本緩和医療学会の東京在勤の理事・代議員が中心となり、東京都のための会を立ち上げ、2014年1月に帝京大学の有賀悦子先生を大会長として第1回学術集会を開催いたしました。続けて、年度も変わりましたこの10月に第2回学術集会を開催する運びとなりました。

今回は特別講演として東京都福祉保健局医療政策部の山田善裕様をお招きし、東京都におけるこれからのがん医療のあり方についてご講演いただきます。パネルディスカッションでは、様々な地域、職種の地域連携の取り組みを紹介し、よりよい連携のあり方についてのディスカッションを行います。第2部では症例検討を通して、さらにきめ細かく議論ができればと考えております。また、プログラムの間と終了後に参加者同士が交流できるようなコーヒースタンドの時間も長めに設けました。

この会が、東京都におけるより良い緩和ケア提供の一助となれば幸いです。